



Medi-Way 医療通訳者紹介 Vol.26 スペイン語担当 大城さん

◆なぜ医療通訳者になった？

32年前に来日した時、私は日本語が全く理解できませんでした。ある日、仕事中に左わき腹に強い痛みを感じて救急搬送され、点滴を受けて退院しました。しかし、医師は私の上司には病状を説明してくれましたが、私には何の説明もなく、とても不安に感じました。今でも、あの痛みの原因は分からないままです。

4年後、私は第一子を妊娠しました。当時は医療通訳サービスが整備されていない上に、病院に連れて行ってくれた知人はスペイン語が話せず、私自身や赤ちゃんの状態について何も分からないままでした。そのため、出産にあたりペルーへ帰国することを決めました。

こうした経験と、息子の子育てに対する気持ちがきっかけとなって、私は日本語を学び始めました。やがて家族や友人が病院に行くときに付き添いをするようになり、多言語センター FACIL が兵庫県で医療通訳サービスを開始したのに伴い、スペイン語医療通訳者として働き始めました。



◆今まで医療通訳に携わってきて一番嬉しかったことは？

嬉しい瞬間はたくさんありましたが、一番は自分や家族の健康を守り、他の人も助けられることです。病気になって、日本語で症状を説明できないこと、医師の言っていることが理解できないこと、そして自分や愛する人たちの健康に不安を感じるものがどれだけつらいことか、私にはよく分かります。



◆より良い通訳をするために心掛けていることは？

日々学び続けることです。私は医療通訳者として20年以上働いており、毎日何か新しいことを学んでいます。仕事をより良くできるよう、学び続けなければと思っています。



『母語と国籍』



私たちの普段の通訳では、患者さんの国籍を尋ねることはあまりありません。最初に「どの言語の通訳をご希望ですか？」という確認から始めますが、英語の通訳を希望されても患者さんが英語のネイティブスピーカーとは限りません。

例えばスペイン語の通訳を希望されても、スペイン本国の方なのか、中南米から来られた方なのか、その方にとってどんな表現が最も「その人の母語」に近いのか、あまりに多種多様でぴったりと対応できるケースの方がむしろ少ないかもしれません。日本国籍を有する方でも、日本語が話せるとは限りません。これは中国語で残留孤児の方の通訳を行う時に強く感じます。

通訳者として現場で働いていて、母語と国籍、つまり母国語は実は一致しないんだなあと思った次第です。

今月のトピックス



「バレンタインデー」

2月14日のバレンタインデー、日本ではもっぱら「女性から男性にチョコを贈る(告白する)日」とされてきましたが、最近では友チョコや自分チョコの方が多いたとも聞きますね。世界のいろいろな国でも「愛の日」「恋人の日」はあるようです。

ブラジルでは6月12日が「恋人の日」で、男女がお互いにプレゼントを贈り合います。

なんと**ベトナム**では2月14日のバレンタインデーと3月8日の「国際婦人デー」、10月20日の「女性の日」のすべての日で女性にプレゼントが贈られるそうです。

中国でも2月14日は「情人節(チンレンジエ)」と言って恋人にプレゼントを贈る日ですが、一般には男性から女性へのプレゼントが多いようです。「情人」と書いて「恋人」を指す中国語、ちなみに「愛人」と書くと…これは「夫」「妻」の意味です。勘違いにご注意ください☺

